



学校教育目標 自ら学び 自ら考え 自ら行動する子を育てる

松林小だより

9月

令和7年9月1日 第6号 茅ヶ崎市立松林小学校 校長 下反 達二

「子どもの声を聴くときは」

篠原久美子

子どもの声を聴くときは、教えてもらう気持ちでね
一生懸命、耳傾けて、教えてもらおう、子どもの世界
子どもの世界の扉はね、内側からしか開かないの
信じるおとなに向かってね

子どもの話を聴くときは、じっくり、ゆっくり、ゆったりね
言おうと思うと時間切れ、中途半端は苦しいよ
子どものつらさと言葉はね、外に出るまで時間がいるの
待ってる時間も、聴いてる時間

子どもの話を聴くときは、「聴いてるサイン」を伝えてね
あいづちうって、うなづいて、子どもの言葉を繰り返し
不安な気持ちの子どもはね、小さな合図で安心するの
「ぼくを分かってくれてるな」って

子どもの話を聴くときは、途中で止めたりしないでね
批判をしたりまとめたり、言い聞かせないでただ聴いて
おとなが口を開くとね、子どもの口が閉じてくよ
知りたいのなら、耳、開こう

子どもの話を聴くときは、瞳のサインをみていてね
子どもはたいいおとなのね、目なんか見ては話せない
それでも分かってほしいとき、瞳で合図を送ってる
見逃さないで、みていてね

子どもの話を聴くときは、顔の高さを合わせてね
上から見下ろされるとね、だれでもちょっと堅くなる
視線の低い子どもにね、しゃがんで視点を合わせてね
子どもが話しやすいから

子どもの話に答えるときは、声の調子を同じにね
大きな声や高い声、おとなのいらいら伝わるよ
子どもは意味が知らなくてもね、声で気持ちが分かるんだ
言葉が出にくくなっちゃうよ

子どもの不安を聴くときは、子どもの気持ちを感じてね
「なぜ?」「どうして?」が問いつめに感じてしまうときあるの
子どもの心配、不安はね、「不安なの?」って繰り返してね
答えは、一緒に考えて

子どもの不安を聴くときは、すぐに原因、決めないで
「地震のせいだ」「性格だ」、決めてもそれは答えじゃないの
子どもを取り巻く世界もね、子どもの心も単純じゃない
広く大きな視野で見て

子どもの悩みを聴くときは、子どもの力を信じてね
しっかり聴いて、じっくり支え、色んな見かたのアドバイス
だけど最後は子どもがね、子ども自身で解決するの
おとなが信じた子どもはね、乗り越えられるよ、大丈夫

夏休みあけ前期後半スタート!!

暦の上では、処暑を過ぎ、朝晩の空気に秋の気配を感じられるころといわれていますが、まだまだ、残暑は続きそうです。いよいよ本日から学校が始まります。学校生活をスムーズにスタートするために大切なことは、「生活のリズムを整えること」です。まず、時間を決めて「早く寝る」「早く起きる」「朝ご飯をしっかり食べる」等、当たり前のことを実行することが、落ち着いた毎日を送る原動力になっていきます。健康管理にも十分注意して、充実した学校生活を送ってほしいと思っています。

左は、30年前の阪神淡路大震災の時に兵庫県教育委員会が作った子どもの心のケアのためのマニュアルをもとに劇作家の篠原久美子さんが作成した詩です。震災で被害を受けた子どもたちの心のケアするには、どんなふうに話を聴いたらよいのかがわかりやすい言葉で表現されています。この詩を読んで我が身を振り返り、いかに自分が「聴いているつもり」であったのかということに思い至りました。

子どもたちの中には、学校での生活や学習、友達関係などに不安を抱えることがあります。友達と関わる中では気持ちのすれ違いが起こることはあるし、嫌な思いをすることもあります。子どもたちは成長する過程で、様々な壁にぶつかり葛藤します。大きい小さいは別として、それを乗り越えてこそ成長があります。しかし、時には乗り越えられず、重い負担となってしまう場合もあります。そんな時、子どもは必ず何らかのサインを発信しているはずで、子どもが発するサインを見落とさないように、あるがままの子どもを受け入れ、子どもの置かれている状況を見極めることが大切と考えています。私たち教職員も、子どもたちにしっかりと向き合い、成長を見守ってまいります。お家でも、お子様の様子が普段と違うな、おかしい…など何かご不安なことがありましたら、遠慮なく学校までご相談ください。

ラジオ体操ありがとうございました

松林学区恒例の青少年育成推進協議会主催のラジオ体操が夏休みの前後半の4日ずつ行われました。毎朝早起きをしてラジオ体操に参加する多くの子どもたち、そして保護者や地域の方(のべ2067名)にお会いし元気をたくさんいただきました。推進協の皆様、また、地域・保護者の皆様もご協力本当にありがとうございました。引き続きよろしくお願いいたします。